

「ろう者と地域をつなぐ架け橋」誰もが安心して暮らせる社会を手話で支える

鹿児島県手話サークル連絡協議会（以下、県手連）は、県内各地で活動している手話サークルの交流と他県の手話サークルとの連携等を図るため、昭和55年に発足しました。現在、県内の手話サークル10団体で構成されています。各サークルの会員数は15名から100名程度で、学生や主婦、教師、定年を迎えられた方等多様で幅広い年齢層の会員が定期的に例会を開いて、ろう者への理解や手話について学んでいます。県手連の濱川千鶴子会長は、「サークルは健聴者のみで構成されている団体ですが、手話を学ぶだけでは会話は成立しないため、聴覚障害があり、手話で会話されるろう者と一緒に活動しています。手話を通してろう者と関わり、ろう文化やろう者への理解を深め、支え合える関係を作っていくことが大切です。その人材育成を担うのが地域のサークルであり、県手連は、地域のサークルとの連携を密にし、ろう者とともに誰もが安心して暮らせる社会を手話を通して支援していきたいです。」と話します。

県手話サークル連絡協議会



サークル活動では、ろう者との会話を楽しむのはもちろん、手話通訳の練習も行っています。



「手話の普及やろう者を取り巻く環境をさらによいものにしていきたい。」と今後の活動を前向きに話す濱川会長。



鹿屋市の手話サークル「やまびこ」は、毎週水曜日に活動中。各サークルへの入会に関する相談は、県手連までお気軽にお問合せください。

最近では知事の記者会見等で手話通訳を目にし、興味をもつ方も多いとのこと。「手話に興味を持ったら、手話講座や市町村の手話奉仕員養成講座等であいさつ等の基本的な手話を学んでいただき、それを実践するために県手連の地域サークルへ入会されることをお勧めします。」と手話を学ぶ方法を提案します。

また、サークルでは手話を学ぶだけではなく、地域のろう者へのサポート活動も行っています。いちき串木野市のサークル「ひまわり」の井手迫なみ子代表は、「ろう者は災害や病気・ケガの際はFAXで通報します。ただ、いざという時に使用出来ない可能性もあります。そこで年に一回ろう者のご自宅に会員が訪問し、消防署と連携をとりながら、通信のテストを行っています。その他にも災害などの情報をSNSで共有するなど、地域との繋がりを大切にしています。」と地域社会に積極的に関わる取組を紹介しています。

かごしま県民手話言語条例が施行されて2年。「コロナ禍のため、県手連と各サークルの活動に制約を受けているものの、県民が手話に触れる機会は増えていると感じています。会員の中には『手話通訳者・士』として活動している者もいます。手話の普及と共に、ろう者への情報保障についての理解が広まるよう働きかけていきたいです。令和5年の『燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会』には、多くの会員が情報支援ボランティアとして参加します。」と濱川会長。手話を通じてろう者と地域をつなぐ架け橋として、更なる活躍が期待されます。

鹿児島県手話サークル連絡協議会
((一社) 鹿児島県聴覚障害者協会)

〒890-0021

鹿児島市小野 1-1-1 ハートピア鹿児島 3 階

TEL : 099-228-2016 FAX : 099-228-6357

活動については、(一社) 鹿児島県聴覚障害者協会の HP をご確認ください。

